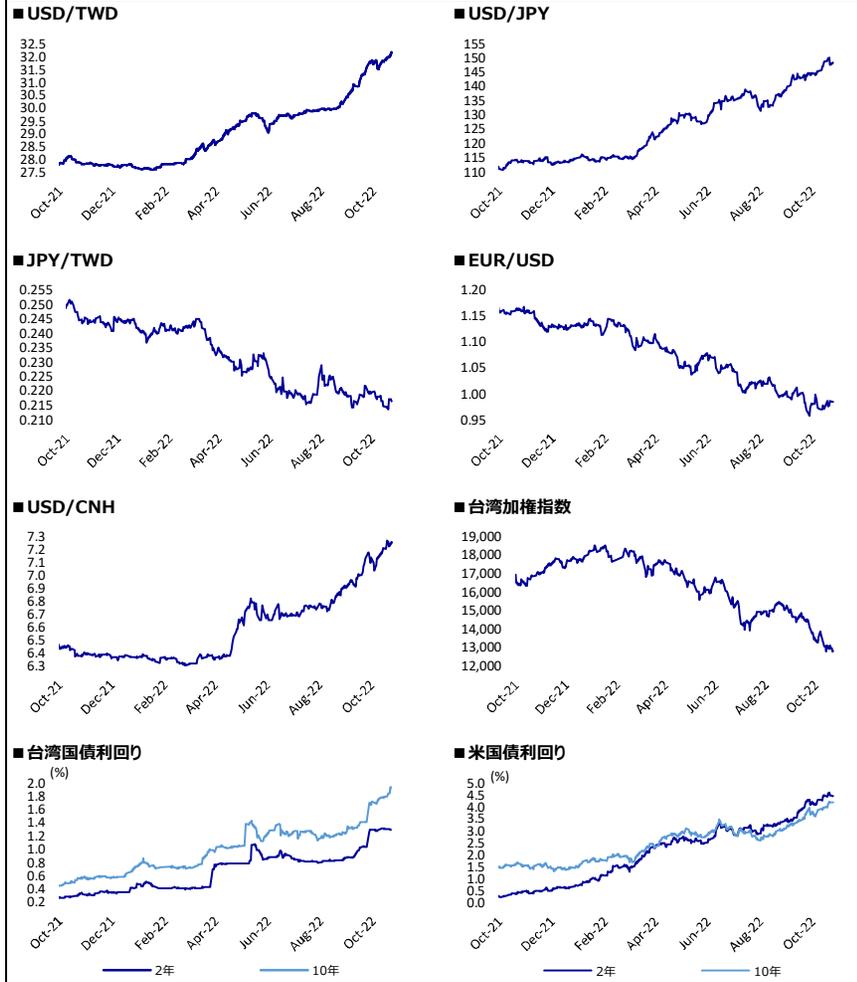


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/17は31.930でオープン後、急上昇し、約5年9か月ぶりに32台に。しかし、32を超えると輸出企業のドル売りが入り、上値は押さえられた。10/18は32.000ちょうどを挟んで輸出企業の売りで外国人投資家の買いが交錯し、レンジで推移。10/19も同様にもみ合う展開であったが、10/20は台湾株が急落すると、台湾ドル売り優勢となり、32.16付近まで上昇。輸出企業が一旦様子見したため、上値を押さえる動きは限定的であったが、中国のコロナ関連規制の緩和について報道されると台湾株が下げ幅を縮小させると、海外からの資金流入もあり、32.1台を割り込んだ。10/21は外国人投資家の台湾株売り台湾ドル売りが続き、じり高の展開に。上値を押さえる動きも少なく、一時32.220まで上昇。最終的に先週比1.0%ドル高台湾ドル安の32.188で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は438.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は1990年以來の150円台をつけたものの、為替介入と見られる動きから下落。週初10/17は148.49でオープン後、為替介入が警戒される中、上値は重レンジでの推移が続いたが、米金利が上昇するとドル円はじりじりと上昇し、149円台に乗せた。10/18は前日の流れを引き継ぎ149円前後で推移していたが、為替介入への警戒感から円が売られると一時148円台前半まで下落したものの、すぐに戻す場面もみられた。10/19は英9月CPIが市場予想を上回ったことを背景にポンドが対ドルで売られるとドル円もつられて上昇。また、米金利が上昇し、米10年債の利回りが4.1%台に乗せたこともサポート材料となり、ドル円は149円台後半まで上昇。10/20は介入への警戒感はあるものの、FED高官のタカ派発言や米長期金利の上昇を受けて、32年ぶりに150円台をつけた。10/21は米金利の上昇を背景にドル高が進む中、じりじりと上昇。151円台に突入し、米10年債の利回りが一時4.33%まで上昇すると一時151.94まで上昇。しかし、FRBが利上げペースを鈍化させると可能性について報道されると151円台前半まで下落し、円買い介入のうわさが広がる中、急落し、145円台まで下落。その後も荒い値動きが続き、最終的に先週比0.7%ドル安円高の147.79で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.950-32.300
引き続き、台湾ドルが売られやすい状況に変わりはないものの、月末に近いことから高値圏では輸出企業のドル売りが入り、上値は重い展開を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：145.00-152.00
再び、日銀の円買い介入と見られる動きが見られたため、相場は乱高下している。基本路線はドル高であるものの、為替介入への警戒感や翌週にFOMCを控えていることから、上値は重い動きとなるであろう。なお、今週は日銀の金融政策決定会合の他、重要経済指標の発表も控えており、発表後の動向には気を付けたい。

今週の予定

10/24 (MON)	台湾9月鉱工業生産、台湾9月失業率、米10月製造業・サービス業PMI
10/25 (TUE)	米10月消費者信頼感指数
10/26 (WED)	米9月新築住宅販売件数
10/27 (THU)	ECB政策理事会、米9月耐久財受注、米Q3GDP速報値
10/28 (FRI)	日銀金融政策決定会合、台湾Q3GDP、米9月個人消費・支出

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。